



「さあ どの絵葉書にしようかな」大和文華館売店と絵はがき掲示板

美術館の絵葉書の 利用について

大和文華館々長 矢代幸雄

美術館を訪れた時の勉強には、どうしてもそこで見た名品や参考品の形とかおもかげなどを忘れないようにする必要があります。そのためには自分でその物をいちいちスケッチすることが一番よい方法に相違なく、美術史専攻の学生などは是非そうすることが望ましく、私も若い頃常にそうやっていましたが、それは随分時間がかかるし、又、スケッチが不得手な人には出来ません。写真を買えばよいのですが、それはあまり売っておらず、また高価で容易に買うことが出来ません。結局、私の長年の経験からいうと、美術館には大抵主要な陳列品の絵葉書を売っていますから、それをよく利用すれば、美術品の勉強に非常に役立つのです。これは私が美術学生であった時以来の実際経験でありますから、それを皆さんにお伝えしましょう。

日本の博物館や美術館では、蔵品の絵葉書の発売ということにまだあまり熱心ではないようですが、これは日本の博物館、美術館の発達がまだまだ幼稚で、館自体が、どうしたら来館者に対する役立ちをもっと能率的、効果的に出来るかなどと、あまり心を配っていないからであります。国にもありますが、外国の有名な博物館や美術館へ行きますと、館長や館員が、どうすれば自分の館の社会的役立ちをもっとよく出来るかと、絶えず心を配っている様子が感じられます。それで、絵葉書の大規模な発行も、そういう見地から研究され実行されているのです。世界で最大の博物館として有名なロンドンの大英博物館(British Museum)は、その点でもまさに世界一で、私のここに言う絵葉書の発行というほんの小さな一事業のように見える仕事でも、実によく考え、行き届いて実施しているのです。そこでは何百枚あるいはもっとそれ以上の数の絵葉書が発行されていますが、一枚一枚には、短くしかも本格的な、2、3行ほどの解説がついています。絵葉書はもちろん一枚づつ買えま

すが、また学的に分類され、同系統同種類の6枚ほどがセットになって、丈夫な袋入りで売られており、その袋には、中の絵葉書についての総合的な説明が簡潔に書いてあります。印刷も極めて良好で、私はいろんな専門図書の図版や挿絵と比べてみたことがありますが、これら絵葉書の方が上等の場合が多いのです。英国では学校教育にも取り入れられており、つまり学校が大英博物館発行の絵葉書を系統的に備えつけて、それらを文化史や美術史の講義に役立てていました。所によっては絵葉書を集めておくセンターを作り、必要に応じて各学校に貸し出すシステムにしているところもあるようでした。私はこうした大英博物館の絵葉書政策は、いかにもイギリスらしい頭のいい実際の着想であると感心したものでした。私は、大和文華館でもなるたけたくさんの絵葉書を発行したいと考えており、追々に多くの人々や学校などでも利用されるようになれば、教育や社会文化的の進歩に多少貢献出来るのではなからうか、と希望しているのです。

絵葉書というものは、世界中ほぼ同じ形をしておりますから、分類にも非常に便利で、カードボックスに入れて分類カードをはさんでおけば、何百枚も手軽に整理できます。そして絵葉書の裏側に、その物に関するいろいろな知識を書き入れておくならば、最も効率的ないわば図版付きの知識の宝庫及び索引になります。今は老人になってなまけておりますが、私自身昔からこの方法を利用しています。一枚一枚の安い絵葉書の分類的集積が、使い方によっては実に貴重な知的財産の分類索引及び観察ノートの搜し出しよい宝庫になるわけです。

絵葉書はこのように利用率の高いものですから、今後皆様方が、美術館の絵葉書を気をつけて集められ、それをいろいろに利用されることを祈ってやみません。

季刊 美のたより No.4

昭和43年1月1日

発行 大和文華館